札幌大同印刷株式会社
環境報告書2009

[お問い合わせ先]
札幌大同印刷株式会社　環境管理事務局
〒062-0905 札幌市豊平区豊平5条5丁目2番25号
TEL 011-823-6115　FAX 011-823-8049
http://www.dioce.co.jp/daido/

2010年6月発行

環境報告書2009

札幌大同印刷株式会社

CONTENTS

02 トップコメント・経営理念・環境方針
03 2009年度実績と今後の環境目標
04 事業活動による環境負荷量
05 環境マネジメントシステム概要
06 省資源･省エネルギーの推進
07 環境リスクの回避
08 環境パートナーシップ
09 環境コミュニケーション

会社概要

■ 商号　札幌大同印刷株式会社
■ 創業　1954年8月10日 （昭和29年）
■ 代表取締役　本間　翼 （ほんま たすく）
■ 所在地
[本社（製造部）]
〒004-0003 札幌市厚別区厚別東3条2丁目1番1号
電話　011-897-9711（代表）
[豊平営業所（営業本部･企画室）]
〒062-0905 札幌市豊平区豊平5条5丁目2番25号
電話　011-823-6115（代表）
■ 資本金　56,950,000円
■ 従業員数　98名（2010年5月現在）
■ 事業概要
[商業印刷]
・パンフレット・リーフレット・カタログ・チラシ・ポスター・メニュー
・会社案内・社内報・報告書・雑誌・カレンダー　等
[デジタル関連]
・Webデザイン・システム開発・データベース構築・プログラミング　等
[その他]
・PR企画立案・マーケティング・ノベルティグッズ・看板・DVD制作　等

報告書概要

■ 環境報告書発行の目的
「環境報告書2009」は、札幌大同印刷の環境への取り組みと実績、地域社会への活動など一部を、札幌大同印刷を支えて頂く多くのステークホルダー（利害関係者）の皆さまに、情報の開示を図るとともに、従業員の環境教育資料として用い、環境保全への意識の向上と情報の共有化に努めることを目的に発行しています。
尚、限られた誌面の中で、すべての活動を報告することは出来ませんが、札幌大同印刷が取り組む等身大の報告としてご理解を頂ければ幸いです。
■ 対象期間
2009年1月1日～12月31日
※2009年度の活動を中心としましたが、一部の項目については過去及び現在継続中の物も含まれております。
■ 対象組織
札幌大同印刷株式会社　全事業所
■ 対象範囲
札幌大同印刷株式会社における環境保全活動や実績を中心に掲載しています。
■ 本報告書の仕様
インキは一部植物油を含む環境に優しい大豆油インキ、用紙は事業活動によって余った紙を使用（リデュース=廃棄物の発生抑制）しています。
※表紙 / オフセット印刷
■ 本報告書掲載「Ecology Report」
http://www.dioce.co.jp/daido/iso/index.shtml

※ステークホルダー（利害関係者）
企業の利害を共有する人。お客様、株主だけではなく、従業員、取引先、地域住民など企業活動を行う上で関わるすべての人を指す。

本業を通して培った技術とノウハウを活かして社会と企業の持続的発展を目指します

トップコメント

米国の景気後退は日本経済にも大きな影響を及ぼし、国内の低迷した経済状況はまだ暫く続くものと思われます。この影響は印刷業界にも非常に厳しく、例外なく札幌大同印刷にも深刻な打撃を与え、事業の構造改革と経営戦略を再構築しなければならない状況にあります。

また、地球を取り巻く環境は刻一刻と変化し、ますます脅威となっております。昨年9月に米国で開催された国連・気候変動サミットでも、日本は温室効果ガス排出量を1990年比で2020年までに25％削減という目標が掲げられました。

札幌大同印刷は、私たちを取り巻く社会・環境が大きく変化する中で、環境に配慮した事業活動はもちろんのこと、経営理念の実現に向かうことが企業の社会的責任そのものであると認識し、本業を通して培ってきた技術やノウハウを活かした新しい価値を生みだしながら、社会と企業の持続的発展の実現を目指した取り組みを推進しています。

札幌大同印刷は、これからも社会の変化に適応しながら、働きがいのある、夢のある会社を目指し、支えていただく多くのステークホルダーの皆さまとともに印刷文化を通して社会の発展に貢献して参りたいと思います。

今後とも皆さまからの変わらぬご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

札幌大同印刷株式会社
代表取締役社長
本間　翼

経営理念

札幌大同印刷は、基本的な考え方や活動の方向性を示している経営理念を実践することこそが、社会的責任を果たすことと考えます。

私たちは　表現・言論・出版の自由を守り
印刷文化を通して
健全な社会の発展に貢献する

私たちは　お客様の志向を十分に認識し喜ばれ
信頼される企業を創造する

私たちは　職業人としての誇りと自覚をもって
自己の能力を研鑽し発揮するよう努力する

私たちは　互いの人間性を尊重し幸福の実現を目指す

制 定1991年 1月 1日

環境方針

■ 理　念

私たちは健全で美しい地球環境の保全を最重要課題のひとつとらえ、印刷及び印刷関連事業、マルチメディア事業の推進と地球環境保全との調和に努め、地球に優しい事業活動を継続して実践し、豊かな自然環境を将来世代へ引き継ぎ、北海道の企業として快適な地域社会の実現に貢献します。

■ 基本方針

1. 事業活動全般によって生じる環境への影響を認識し、環境目的・目標を定め、環境汚染の予防を含め、環境マネジメントシステムの継続的改善を図ります。
2. 事業活動全般にかかわる環境関連の法律、規制、協定等を順守するとともに、自主基準を定めて管理し、環境リスクを回避します。
3. 環境保全のため、次の項目を環境管理における重点テーマとして取り組みます。
   1）省資源･省エネルギーの推進
   2）車両による排出ガスの管理と削減
   3）製造過程で使用する有機溶剤などの管理と削減
   4）廃棄物の管理と削減、リサイクル化
   5）製品事故の削減
   6）環境に配慮した資材、企画の提案とお客様サポート
   7）環境情報の公開
   8）地域社会への貢献
4. 環境方針を達成するため環境目的･目標を設定し、全事業所･全従業員をあげて環境管理を推進します。
5. 環境方針は札幌大同印刷で働く、または組織のために働くすべての人に周知し、環境保全の意識向上に努めます。また、利害関係者への周知により環境マネジメントシステムの理解と協力を要請すると共に一般の人にも開示し、入手可能とします。

制 定 2003年 3月 1日　改 訂 2009年 3月 1日

2009年度実績と今後の環境目標

「環境方針」の実現に向けて、環境保全活動の達成状況などを評価し、
「中期環境目標」及び「年度環境目標」の見直しと設定を毎年行っています。

2009年度環境目標・実績

札幌大同印刷は、これまでの環境保全活動の実績を踏まえ、2009年度12項目の環境目標を設定し、その目標達成に向けた環境活動を推進してきました。2009年度の活動実績を集約すると9項目について環境目標を達成することが出来ましたが、3項目については残念ながら目標を達成することが出来ませんでした。

※自己評価　○目標達成　△目標未達成

環境方針	環境目的	2009年度目標	2009年度実績	評価
省資源・省エネルギーの推進	電力の使用量削減	使用量の把握 手順に基づいた日常管理の徹底 クールビズの継続	使用量の把握および手順に基づいた日常管理、クールビズを実施 前年比7.1%削減	○
	コピー用紙の使用量削減	使用量の把握 手順に基づいた日常管理の徹底	使用量の把握および手順に基づいた日常管理を実施 前年比3.1%削減	○
	印刷予備紙の削減	印刷予備紙率　13.00%	印刷予備紙率　13.05% 前年比0.18%削減	△
車両による排気ガスの削減	低公害車の導入	低排出ガス車の導入率　80.0%	低排出ガス車の導入率　82.6% 前年比3.6%増加	○
製造過程で使用する有機溶剤などの管理と削減	有害化学物質の削減	揮発性有機化合物(VOC)該当 トルエンの環境対応品への移行	調査及びテスト実施した結果 該当無し 前年比9.7%増加	△
廃棄物の管理と削減リサイクル化	産業廃棄物の適正処分	排出量・処分の把握 手順に基づいた日常管理の徹底	排出量・処分の把握 手順に基づいた日常管理を実施	○
製品事故の削減	製品事故の削減	製品事故の把握 手順に基づいた日常点検の徹底	製品事故の把握および手順に基づいた日常点検を実施 前年比31.1%削減	○
環境パートナーシップ	大同特色インキの提案	提案受注率　46.00%獲得	提案受注率　37.54%	△
	環境にやさしい紙の提案	提案受注件数の把握 環境にやさしい紙の提案を継続	提案受注件数の把握および環境にやさしい紙の提案を実施 提案受注率　7.70%	○
	環境パートナーシップの強化	環境配慮型製品の提案 環境報告書作成の提案	環境に配慮した製品の提案を実施 環境報告書作成の提案を実施	○
環境コミュニケーション	環境情報の公開	環境報告書の発行 ホームページによる情報の公開	環境報告書2008の発行 ホームページによる情報の公開実施	○
	地域社会貢献活動	地域社会および市民活動などへの参加・協力	円山動物園応援グッズの制作・販売 キャンドルナイト・アースデイなどへの参加・協力	○

環境中期計画

札幌大同印刷は、「環境方針」の実現に向けて会計年度を環境保全活動の周期とし、環境目標の達成結果や活動状況などを評価・検証し、「環境中期計画」の見直しと次年度「環境目標」の設定を行い、環境保全活動を推進しています。

環境方針	環境目的	中期目標
省資源・省エネルギーの推進	電力の使用量削減	使用量の把握と手順に基づいた日常管理の徹底　クールビズの継続
	コピー用紙の使用量削減	使用量の把握と手順に基づいた日常管理の徹底
	印刷予備紙の削減	印刷予備紙率13.00%
車両による排気ガスの削減	エコドライブの推進	エコドライブの推進　低公害車の導入
製造過程で使用する有機溶剤などの管理と削減	有害化学物質の削減	揮発性有機化合物(VOC)該当　トルエンの環境対応品への移行 (調査及びテストの実施)
廃棄物の管理と削減リサイクル化	産業廃棄物の適正処分	排出量・処分の把握　手順に基づいた日常管理の徹底
製品事故の削減	製品事故ゼロ　※チャレンジ目標	製品事故の把握と手順に基づいた日常点検の徹底
環境パートナーシップ	大同特色インキの提案	大同特色インキの提案の継続　提案受注率35.00%維持
	環境にやさしい紙の提案	環境にやさしい紙の提案の継続　提案受注件数の把握
	環境パートナーシップの強化	環境配慮型製品の提案　環境報告書作成の提案
環境コミュニケーション	環境情報の公開	環境報告書の発行　ホームページによる情報の公開
	地域社会貢献活動	地域社会および市民活動などへの参加・協力

事業活動による環境負荷量

事業活動から生み出されるさまざまな環境負荷のデータを集計・把握し、
多岐に渡る環境影響を評価して、環境目的・目標に反映しています。

物質のINPUT(投入)・OUTPUT(排出)

環境負荷の低減を図るためには、事業活動全体によって生み出される様々な環境影響を把握する必要があります。札幌大同印刷では、環境に与える影響が多岐に渡ることから、事業所毎に物質のINPUT(投入)及びOUTPUT(排出)による環境データを集計し、各事業所から収集した環境データを基に環境側面の影響評価を行い、環境目的・目標に反映しています。

※環境影響
有害、有益を問わず、全体的または部分的に事業活動などから生じる環境に対するあらゆる変化のこと。

※環境側面
環境と相互に影響しうる事業活動などの要素のこと。

■2009年度事業活動による主な環境負荷量

INPUT

エネルギー

電　気	363,365 kw
ガ　ス	196.20 m^3
灯　油	7,179 L
ガソリン	28,130 L

資材・原材料

印刷用紙	再生紙等	69.1 t
	一般用紙	711.2 t
		780.3 t
印刷インキ	SOYインキ	2,109 kg
	一般インキ	7,533 kg
		9,642 kg
コピー用紙 (A4換算)		374,094 枚
PS版		9,623 kg
スプレーパウダー		300 kg
製本針金		414 kg

化学物質

製版薬品	10 L
印刷溶剤	9,947 L
トルエン	252.0 kg

DAIDO

営業本部

物やサービス、情報、人などを結びつけます。

企画室

企 画
お客様に合わせたコンセプトをまとめ、企画立案します。

デザイン・編集
コンセプトに沿ったビジュアルや文章などを駆使し、表現します。

製 版
テキストや画像データなどを適切な印刷用のデータに変換します。

Web
ホームページやプログラムの企画制作をします。

製造部

刷 版
校了となった印刷用に変換されたデータを、印刷用の原版にします。

印 刷
印刷原版を印刷機に設置し、クライアントの要求を印刷で再現します。

製本・加工
刷り上がった印刷物を、断裁、折り、製本など、最終的な製品に仕上げます。

梱包・納品
完成した製品を、クライアントの指定する形に梱包し、期日までに指定の場所にお届けします。

OUTPUT

二酸化炭素（CO_2換算）

電　気	129,721 kg
ガ　ス	432 kg
灯　油	18,019 kg
ガソリン	64,980 kg
合　計	213,152 kg

廃棄物

再生資源 (有価物)	
古紙	170,870 kg
アルミ版	7,630 kg
再生資源 (産業廃棄物)	
金属くず	233 kg
廃酸	88 kg
廃アルカリ	10,170 kg
焼却・埋立 (産業廃棄物)	
廃プラスチック	89 kg
紙くず (再生不可)	7,568 kg
廃油 (インキ類)	3,888 kg
廃油 (洗浄油)	1,756 kg
合　計	202,292 kg
一般廃棄物	28.50 m^3

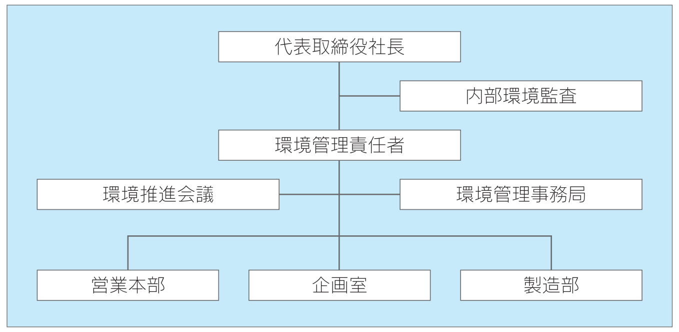
環境マネジメントシステム概要

PDCAサイクルを継続的に行って環境マネジメントシステムを運営し、
環境活動の維持・改善・向上に取り組んでいます。

環境マネジメントシステム推進体制

札幌大同印刷は、効果的な環境マネジメントの運営を推進するためにPDCAサイクルを継続的に行い、代表取締役社長及び環境管理責任者のもと、役割と権限を明確にし、環境管理事務局・各事業所の環境保全担当者と連携を図り、環境活動を円滑に行っています。

■環境マネジメントシステム概要



※PDCAサイクル

Plan(計画)・Do(実施・運用)・Check(点検・評価)・Action(見直し)という4つの観点からスパイラルに継続的改善を図るマネジメントシステム管理の手法。

環境教育

地球環境問題の基礎知識や環境保全の継続的な改善を図るための環境教育を新入社員を始めとした全従業員を対象に実施しています。

また、部門独自の取り組みと日常の環境保全活動の維持向上を目的とする部門教育や環境マネジメントの専門的な知識などの習得を目的としたスタッフ・内部環境監査員の専門教育など実施しています。

2009年7月に全社環境教育を実施し、全従業員が受講しました。

法令の順守

札幌大同印刷の事業活動、製品及びサービスにおいて、環境側面に適応される環境関連法規制や地域の条例・協定などを遵守することはもとより、要求される規制の基準に対してより厳しい自主基準を設け、環境汚染の未然防止に努めています。

2009年度において、環境関連法規制等に関する違反や指摘、指導などはありませんでした。

■関連する主な環境法規制

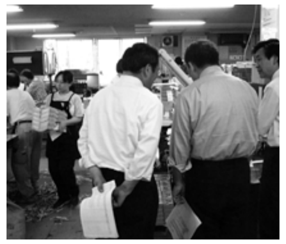
・水質汚濁防止法　・下水道法　・労働安全衛生法　・PRTR法
・グリーン購入法　・大気汚染防止法　・フロン回収破壊法　・消防法
・廃棄物の処理及び清掃に関する法律　・札幌市生活環境に関する条例
・北海道公害防止条例　・札幌市廃棄物の減量及び処理に関する条例　など

環境マネジメントシステム監査

環境管理責任者を中心に運営する環境マネジメントシステムが、ISO14001の規格との整合性や環境関連法規制の遵守などを適切に運用しているかを確認して評価し、継続的な改善を図っています。

内部監査では事業所毎の記録の確認や担当者とのヒアリング、現場従業員へのインタビューなど日常の取り組みを中心に行っています。

2009年度の監査は、各事業所でのヒアリングやインタビューからも環境保全活動への意欲の高さが伺われ、前年に引き続き環境マネジメントシステムの定着を確認することが出来ました。



今後の課題として、更なる環境と経済の共生についての挑戦と実行がキーワードになることを再確認することが出来ました。

■2009年度 内部環境監査実施結果

	営業本部	企画室	製造部	環境管理責任者 環境管理事務局
観　察	2件	1件	1件	1件
軽微な不適合	1件	0件	0件	0件
重大な不適合	0件	0件	0件	0件
合　計	3件	1件	1件	1件
賞賛事項	1件	2件	1件	2件

事故・緊急事態発生への対応

薬品や灯油などの流出や火災、地震などの自然災害など、各事業所で起こりうる事故・緊急事態を想定して手順に定め、事故・緊急時に備えた訓練を実施しています。

万一事故が発生した場合には、早急に対応すると共に、原因の究明や予防対策などの対応手順を見直し、再発防止に努めます。

2009年度において、事故・緊急事態の発生はありませんでした。

省資源・省エネルギーの推進

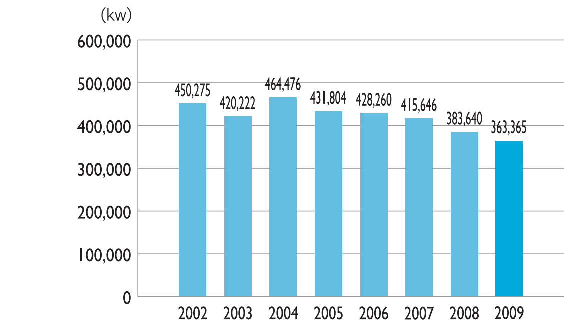
事業活動から生み出されるさまざまな環境負荷のデータを集計・把握し、
多岐に渡る環境影響を評価して、環境目的・目標に反映しています。

電力使用量の削減

CTP導入による印刷工程のデジタル化を推進。従来のフイルムを使用せずコンピューターからオフセット印刷用のPS版に直接データを出力することで、制作・刷版・印刷までの工程の作業時間を短縮しています。

また、各事業所のオフィス活動においては、クールビズの実施や照明未使用箇所の部分消灯、冷暖房の温度設定管理、離席時のパソコンモニター電源OFF、液晶モニターなどの省エネ機器導入するなどに取り組んだ結果、電力使用量を前年度比で7.1%削減することが出来ました。

■電力使用量の推移



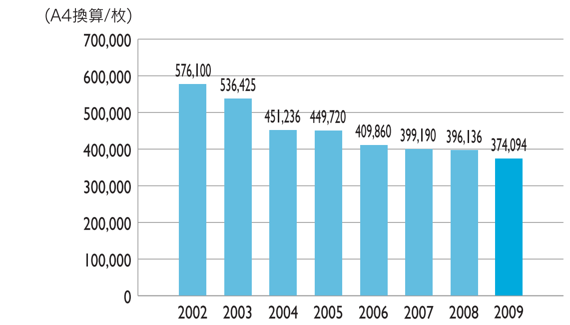
※CTP (Computer To Plateの略語)

パソコンで作成したデータを、中間工程である製版フイルムに出力せず、直接刷版にて印刷機で使用するPS版に焼き付ける方法。

コピー用紙使用量の削減

お客さまとの校正のやり取りで多く使用するコピー用紙は、両面出力や裏面の再利用、PDF校正によるメールの活用、営業日報のデジタル化など日常の取り組みを継続的に行っています。また、製本工程時に発生する印刷用紙の断裁紙片を有効的に利用するなどに取り組んだ結果、コピー用紙使用量を前年度比で3.2%削減することが出来ました。

■コピー用紙使用量の推移



印刷予備紙の削減

札幌大同印刷は、事業活動により大量な紙を使用していることから、印刷位置やインキ濃度を合わせるなど、印刷時の試し刷りに使用される印刷予備紙の削減に努めています。

CTPやカラーマッチングによるデジタル化の推進、損紙の再利用、喚起ポスターの掲示や部門教育によるオペレーターの意識啓発などに取り組んだ結果、印刷予備紙率は前年度比に対し0.18%削減することが出来ましたが、2009年度13.00%の目標に対しては0.05%目標を上回ってしまいました。

増加原因として、通し枚数の少ない印刷物が多かったことにより、印刷予備紙の比率が増加したと考えられます。また、今後の傾向としても通し枚数の減少が予想されることから、製造部での教育による作業手順の徹底を図るとともに、受注傾向の変化に合わせた印刷予備紙率の目標設定の見直しを検討して行きます。

※PS版 (Presensitzed Plateの略語)

紫外線により感光する感光層をアルミ板に塗布したもので、オフセット印刷の版材として使用される。

※カラーマッチング

パソコン画面上の色と出力して印刷された色は再現方法が異なるため完全に一致するものではないが、この色のずれをコンピュータで計算し、色の再現性を調整すること。

※損紙

印刷や製本作業中に様々な要因から、製品として使用できなくなった用紙のことで、別名ヤレともいう。

グリーン購入の推進

札幌大同印刷は、商品やサービスを購入する際に必要性を十分考慮し、価格や品質とともに環境への負荷が出来る限り少ない物を優先的に購入しています。

グリーン購入対象品目として、文具事務用品、OA用紙、ティッシュ・トイレットペーパー、オフィス家具、社用印刷物の5項目を対象とし、グリーン購入の推進をしています。

環境リスクの回避

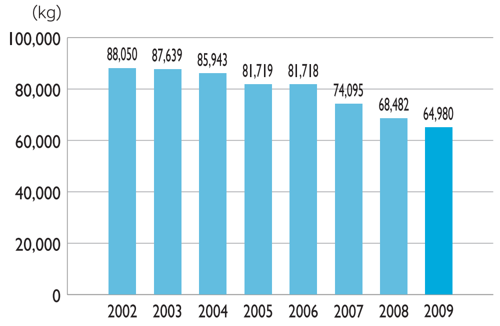
化学物質、廃棄物などによる様々な汚染の予防や法令の遵守などとともに、
従業員の安全や健康管理などに取り組んでいます。

車両による排出ガスの削減

アイドリングストップや法定速度遵守の徹底などに取り組むとともに、燃費の向上と排出ガスに含まれる窒素酸化物や二酸化炭素などの排出量が従来の自動車に比べて少ない低排出ガス基準レベル認定自動車を導入の際に積極的に選択した結果、低排出ガス車導入率80%の目標に対して82.6%と目標を達成することが出来ました。

今後は順次車両入れ替えの際に低排出ガス基準レベル認定自動車を導入するとともに、エコドライブを推進していきます。

■車両による二酸化炭素の推移



※低排出ガス基準レベル認定自動車

NOx(窒素酸化物)やPM(粒子状物質)など排出ガス低減に向け、国が定めた自動車の排出ガス基準に対応した低排出ガス車制度の認定を受けた自動車。

製造過程で使用する有機溶剤などの管理と削減

2006年度より使用を禁止したジクロロメタンの代替品として、オフセット印刷機に付属するブランケット胴の洗浄用溶剤トルエンは、「札幌市生活環境の確保に関する条例」にて揮発性有機化合物(VOC)に該当し、特定化学物質の規制対象となることから、使用の制限や使用量の把握など、手順に基づいた日常管理の徹底に努めています。

環境対応品への転換を図るために代替品の検証に取り組みましたが、2009年度の調査・検証では、トルエンに代わる環境対応品はありませんでした。

また、化学物質の管理や使用の制限など環境負荷の低減を図ると共に、化学物質を使用する作業に従事する従業員に対し、労働安全法有機溶剤中毒予防規則に則り、有機溶剤等の健康診断を年2回実施し、従業員の安全と健康管理に取り組んでいます。

※ブランケット胴

オフセット印刷機の胴のうち、印刷圧を生むゴムブランケットを巻いた中間胴の事で、版胴上の画像は一度このブランケット胴に転移され、さらに紙に再転移されます。

廃棄物の管理・削減・リサイクル化

産業廃棄物の適正処分のため、最終処分までの当社自主基準期日を設定し、処分終了までの監視をマニフェスト管理票にて管理しています。また、処理委託業者の許可証有効期限も定期的に確認しています。

産業廃棄物は印刷工程でもっとも多く排出され、全事業所の排出量約96%を占めますが、従来の化学薬品を多く使用する簡易校正機の使用を停止したことなどにより、前年度比で総排出量6.8%削減することが出来ました。

■産業廃棄物の排出量と処理（2009年度）

項 目	リサイクル	焼 却	埋 立
紙くず	○		
PS版	○		
金属くず	○		
廃液（廃酸・廃アルカリ）	○	○	
廃プラスチック		○	○
紙くず（再生不可）		○	
廃油		○	

※マニフェスト管理票

産業廃棄物の収集・運搬、中間処理、最終処分などを委託する場合、排出者が委託者に対して適正な処理が行われたことを確認する管理票のこと。

製品事故の削減

印刷による製品事故は他の製造業と比較すると約20倍の発生率と言われています。たとえ環境に配慮した紙やインキを使ったとしても、製品事故が発生するとその取り組みが無意味な物となってしまいます。

印刷の代表的な製品事故として誤字・脱字・色間違い・汚れ・色ムラなどが挙げられますが、製品事故の発生を未然に防ぐために作業チェックリストを見直すなど、製品事故の予防対策を継続的に行っています。

製品事故が発生した際には、事故原因の追及と対策を講じ、全従業員に製品事故の情報を共有し、改善及び再発防止に努めた結果、前年度比で約68%削減することが出来ました。

環境パートナーシップ

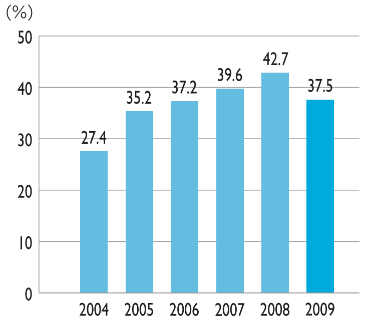
環境への配慮は、用紙・インキの提案はもちろんのこと、企画・デザインの段階から
お客様とともに環境保全を考えたコミュニケーションツールを作成します。

大同特色インキの提案

札幌大同印刷は、無駄になるインキを極力減らすため、使用頻度の高い特色インキを選定した見本帳を用意し、お客様に出来るだけ見本帳の中からお選び頂く提案を行っています。

営業活動において、お客さまに大同特色インキの提案を行った結果、受注提案率が前年度比で5.2%低下してしまいましたが、大同特色インキの提案が環境負荷低減に繋がる取り組みと考え、微力ではありますが、今後も引き続き提案を行って参ります。

■大同特色インキの提案受注率の推移



環境に配慮した紙の提案

ライフサイクルアセスメント(LCA)の観点から、紙資源のリサイクルを推進することで、二酸化炭素の削減や廃棄物の増加などを抑制する再生紙。紙の原材料としてだけでなく、森林の生態系をも守るために管理された森林から産出された森林認証紙や森林の健全な育を促すために密集した木の一部を伐採した間伐材を配合した間伐材紙など、環境に配慮した紙の提案をお客さまに行っています。

※ライフサイクルアセスメント（LCA=Life Cycle Assessment）

その製品に関する資源の採取から製造、輸送、使用、廃棄などすべての段階を通して環境影響を定量的、客観的に評価する手法。

環境報告書の提案

環境保全の取り組みや実績などをまとめた「環境報告書」を発行し、社会に環境情報公開することで、地域社会とのコミュニケーションや従業員のモチベーションアップなど、また企業の信頼性の向上に有効なツールになると考え、お客さまに「環境報告書」の作成を提案しています。

■主な環境配慮型製品の実績

あつい！たのしい！おもしろい！ ともにつくる　わたしの動物園
NPO法人環境活動コンソーシアム　えこらぼ様
ポスター・チラシ・報告書　[再生紙・大豆油インキ]

ポスター

打ち合わせの様子

GCOEプログラム支援ユニット
北海道大学大学院環境科学学院様
パンフレット
[間伐材紙・大豆油インキ]

打ち合わせの様子

パンフレット

アースデイEZO2009
アースデイEZO実行委員会様
フライヤー・ポスター・報告書 他
[再生紙・大豆油インキ]

報告書

モエレ沼公園 環境・樹木マップ
モイレHIDAMARI様
[再生紙・大豆油インキ]

打ち合わせの様子

環境マップ

さっぽろ環境ポスター2009
札幌市環境プラザ様
ポスター　[再生紙・大豆油インキ]

小学3・4年生の部

小学5・6年生の部

中学生の部

さっぽろキャンドルナイト2009
さっぽろキャンドルナイト実行委員会様
ポスター・パンフレット・報告書 他　[再生紙・大豆油インキ]

ポスター

報告書

キャンドル包装

環境コミュニケーション

私たちは社会の一市民として、地域社会に根差した活動を応援するとともに
地域の人たちとのコミュニケーションを大切にしています。

地域社会貢献活動

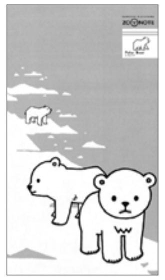
■札幌市円山動物園応援グッズ

地球や動物たちの未来のことを楽しく考えるきっかけづくりとして、札幌市円山動物園にいる動物たちをモデルにした「どうぶつぬりえ」「ZOONOTE」を公認グッズとして制作販売しています。

2009年度は「どうぶつぬりえ」第2弾と「ZOONOTE」に双子のホッキョクグマとユキヒョウが新たに仲間入りしました。

札幌大同印刷は、販売した収益金の一部を動物たちの食べ物代として札幌市円山動物園に寄付しています。

どうぶつぬりえ2



ZOONOTE

■アースデイEZO2009 ～ヒトツノピース～

主催：アースデイEZO2009実行委員会

ヒトツノピースをテーマに北海道で地球・自然・人間・文化など幅広いテーマで活動する個人・団体・企業などがパズルのヒトツとしてつながって、北海道で大きな力を生み出したいというアースデイEZO2009実行委員会の呼びかけに賛同し、「アースデイEZO2009～地球のことを考えて行動する日～」に協賛・協力しました。

実行委員会の運営やオフィシャル会場の一つ大通公園2丁目会場でボランティアスタッフとして従業員が会場整理や移動食器洗浄車「アラエール号」などの活動をしました。

※アースデイ＝地球のことを考えて行動する日

1970年、アメリカウィスコンシン州のネルソン上院議員が、4月22日をアースデイ・地球の日であると宣言して始まる。このアースデイを通じて環境の抱える問題など、たくさんの人々に関心を持ってもらおうと呼びかけられ、現在世界各地で開催されている地球フェスティバル。

※移動食器洗浄車「アラエール号」

環境に配慮したイベントの実現に向けて、汚れた食器を洗って繰り返し使える食器洗浄機と食器をを搭載した小型トラック。

■あつい！たのしい！おもしろい！ともにつくる　わたしの動物園

主催：NPO法人環境活動コンソーシアム　えこらぼ

動物園を活用した「持続可能な開発のための教育(ESD)」教材開発のための調査研究活動として札幌市円山動物園が調査地として選ばれ、動物園の可能性を考えるシンポジュウム＆プログラム体験などが開催されました。

札幌大同印刷は、ESDの取り組みに賛同し、札幌市円山動物園で取り組む活動をパネルにして展示するなどの協力をしました。

※持続可能な開発のための教育（ESD=Education for Sustainable Developmentの略）

一人ひとりが、世界の人々や将来世代、また環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育と定義されている。

■さっぽろキャンドルナイト2009

主催：さっぽろキャンドルナイト実行委員会

「1年中で一番昼が長い夏至の日、夜8時から10時までの2時間、みんなで一斉に電気を消して、スローな夜を過ごそう」「世界に誇れる環境文化都市さっぽろの実現を目指そう」というさっぽろキャンドルナイト実行委員会の呼びかけに賛同し、さっぽろキャンドルナイト2009に協賛・協力しました。

参加者の交流の場としてのキャンドルナイトミーティングへの参加やお客さま・取引先・従業員などにキャンドルナイトへの参加を呼びかけ、パンフレットやキャンドルを配布し、残業の抑制などに取り組みました。

■環境★仕事人 GET'S 2009

主催：えこふぉおつかいDO

市民団体・企業・行政など、環境に携わる社会人から環境の仕事や魅力などに触れる環境交流促進イベントが北海道大学交流会館で開催され、札幌大同印刷の環境活動発表や環境報告書の展示・配布をしました。

■ラブアース・クリーンアップ in 北海道 2009

主催：NPO法人北海道市民環境ネットワーク

地球の未来を考え、自然やかけがえのない地球を愛するために、まず身近な地域を愛することから始めようと考え、誰でも参加できるごみ拾いから行動していこうという北海道市民環境ネットワークによる「ラブアース・クリーンアップ in 北海道 2009」の呼びかけに賛同し、6月の環境月間に3事業所周辺のごみ拾いを実施しました。

総勢68名が参加し、燃えるごみやビン・缶・ペットボトルなど総重量約13.2kgのごみを回収しました。

■さっぽろ環境ポスター2009

主催：札幌市環境プラザ

「さっぽろの自然とエコライフ」をテーマに、札幌市内の小中学校に環境啓発ポスターを募集し、児童・生徒から約120作品の作品が応募され、札幌市内4カ所を移動しながら展示されました。応募された作品の中から市長賞に選ばれた3作品は、札幌市民への環境啓発ポスターとして札幌市内公共施設などに掲示されました。

札幌大同印刷は、この取り組みが環境教育の一環となることから、環境に配慮したポスターの印刷や表彰式会場での当社環境への取り組みパネルの展示などに協力しました。

■アースデイ・カフェ

ホームページで環境情報を発信する「ecorogy reort」内にて、札幌大同印刷が環境活動を推進する中で出会った、自然環境やエネルギー・ごみ問題などに、個人・団体・企業・行政など様々な視点から地球のことを考えて行動する人たちの活動のお話を紹介しています。

■メディアで紹介されました

札幌市広報番組「いいコト聞いた」～エコ市民運動(1)～

札幌市では地球温暖化防止のために、市民誰もが簡単にできるエコライフを実践してもらおうと、一人ひとりが実践しやすい様にチェックできるエコライフレポートの取り組みを呼びかけています。

札幌大同印刷は、エコライフレポートに継続的に参加するなど、環境に配慮した活動に積極的な企業の一つとして、札幌市広報番組「いいコト聞いた」～エコ市民運動(1)～(2009年7月12日放送)の中で紹介されました。

札幌商工会議所発行「さっぽろ経済」10月号

企業は経済活動を追及するだけでなく、地域社会や環境に与える影響に責任を持つべきであるという企業の社会的責任(CSR)の考えから、環境保護やまちづくり活動などに様々な分野で独自の社会貢献に取り組む企業として、札幌商工会議所が発行する「さっぽろ経済」10月号の特集「企業の新しい社会貢献のカタチ」の中で、札幌市円山動物園応援グッズや環境報告書など、札幌大同印刷が取り組みが紹介されました。

※企業の社会的責任（CSR=Corporate Social Responsibility）

企業は利益を追及するだけでなく、組織の活動が社会へ与える影響に責任を持ち、あらゆるステークホルダーからの要求に対し、適切な意思決定をすることを指す。

環境情報の公開

■環境報告書の発行

環境情報の公開により、お客さま・地域住民・従業員など、札幌大同印刷を支えていただく多くのステークホルダーとのコミュニケーションを図る重要なツールであると考え、2003年度より発行しています。

2009年2月には大通オーロラスクエアにて札幌市が主催する「環境報告書展」にも参加し、配布しました。

環境報告書は札幌市環境プラザ・北海道環境サポートセンターにて常設・配布しています。

■ホームページによる環境情報の公開

札幌大同印刷のホームページ内にて、環境活動の情報を公開・発信する「ecorogy report」を開設し、主な環境への取り組みなどを公開しています。